

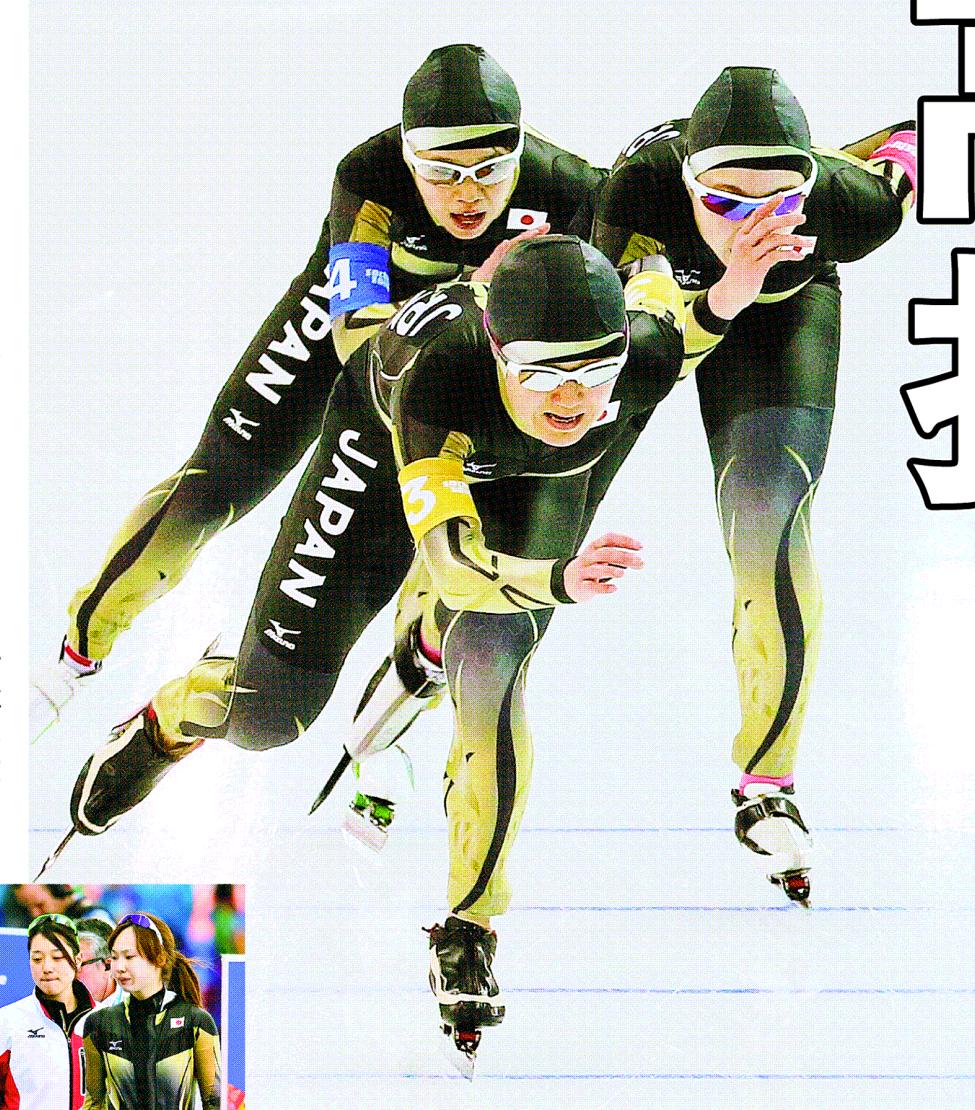
スピードスケート女子団体追い抜き3位決定戦、力走する（手前から）
田畠真紀、押切美沙紀、高木菜那=22日、ロシア・ソチ（時事）

今大会最後のレース。懸命に腕を振つてゴールへ飛び込んだが、あと歩メダルには届かなかつた。スピードスケート女子団体追い抜きで日本は4位。3人ともがつくりとうなだれた。スピードスケート決戦。中長距離選手の日2レース目の疲れが出たのか、4周目がくつとべ

田畠温存策実らず

スダン。ラップを維持したロシアに逆転され、そのまま差を広げられた。日本は現実的な選択を下し、オランダがそろう大本命。個々の実力で大きく劣る日本が勝つのは至難の業。しかも、次のレースとの間隔は2時間足らずだった。2つとも田畠が出るのは厳しい。（羽田）「勝てる可能性が大きい3位決定戦。忠雄監督は、「責任を感じて、メンバーを決めた。石幡待が大きいこの種目を重視し、日本スピードスケート陣はこれまで駄目だ」と総括した。

「ものすごい差」実感



高木押切経験を次へ

スピード
—

スピードスケートは22日、男女団体追い抜きが行われ、女子3位決定戦で今季のワールドカップ（W杯）ランキング4位の日本は高木菜那（日本電産サンキョー）・高木菜那（富士急・駒大吉小牧高、中札内押切美沙紀（富士急・駒大吉小牧高、中札内

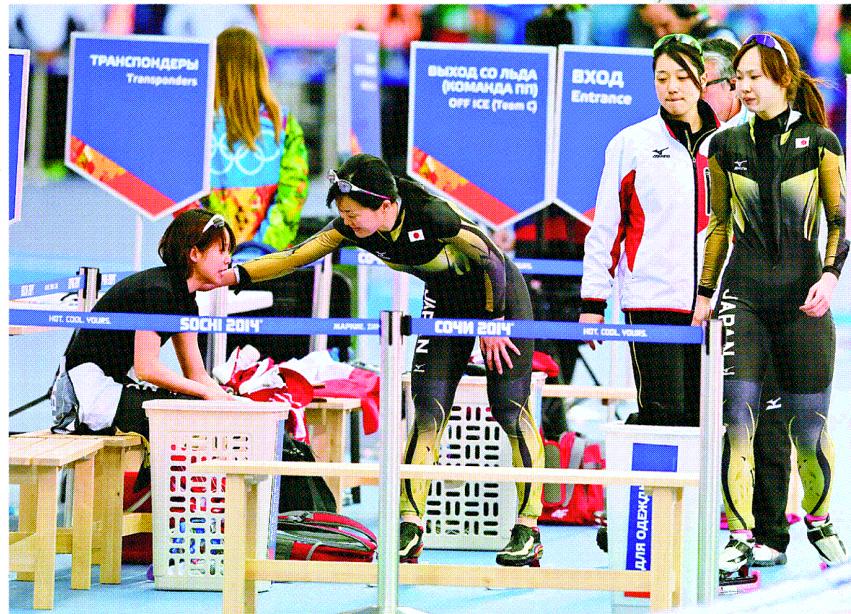
中出）、田畠真紀（ダイナ）の布陣で同6位の中出、田畠真紀（ダイナ）の布陣で同6位のロシアと対戦し、2秒84差で敗れた。日本スピードスケート陣は2大会ぶりにメダルなしに終わつた。金メダルは決勝で五輪記録を更新したオランダ。2位はボーランドだった。男子もオランダが五輪新記録で金メダル。2位は韓国、3位にはボーランドが入つた。

▽女子団体追い抜き
①オランダ（レーンストラ、テルモルス、ブスト）
②ボーランド
③ロシア
④日本（押切美沙紀、田畠真紀、高木菜那）
⑤カナダ
⑥米国
⑦ノルウェー
⑧韓国

(オランダは決勝のメンバー、日本は3位決定戦のメンバー。オランダは決勝で2分58秒05の五輪新)

▽男子団体追い抜き
①オランダ（フロックハイゼン、クラマー、フェルバイ）
②韓国
③ボーランド
④カナダ
⑤ノルウェー
⑥ロシア
⑦米国
⑧フランス

(オランダは決勝のメンバー。オランダは決勝で3分37秒71の五輪新)



「深刻に考えないと」田畠、日本の現状憂う

「ソチ時事」ソチ五輪のスピードスケート女子団体追い抜きで、日本は4位に終わった。39歳の田畠真紀（ダイナ）は「低速リンクでの自分たちのペースを出しても勝てなかつた」。2大会連続のメダルを逃し、潔く負けを認めた。田畠はパンクーバー五輪後、自転車競技に挑戦。昨季後半戦からスピードスケートの代表に復帰。田畠は直前の準決勝に出場せず、休養を始めた。田畠は直前の準決勝で追い抜きのチームでは「五輪経験者は私だけ。自分が調子がいいところを見せて、安心してもらいたい」とリーダー役を務めた。22日の団体追い抜き3位決戦。田畠は直前の準決勝で臨んだ。少しの状態で臨んだ。1スチールまでは狙い通りをこらんだ。

日本女子ひとつ

もっと速くなりたい

高木菜那 力を出し切れたレースだった。ただ、このタイムでは世界で勝てない。世界との差を実感した。もっともっと速くなりたいという気持ちが持てた。次の五輪では、個人でも団体追い抜きでもメダルを取れる選手になりたい。

強くなりたい

押切美沙紀 団体追い抜きでメダルを取りたかった。でも、

実力不足だった。この悔しい気持ちをバネにして、もっともっと強くなりたい。速くなつて4年後の平昌に臨みたい。

力上げられなかつた

田畠真紀 ここに来るまでに、力を引き上げられなかつた。五輪は世界が一つになる素晴らしい場所という実感はした。

準備できなかつた

菊池彩花 悔しい。ここに来るためにちゃんと準備できなかつた。本来のベストで臨みたかったが、それができなかつたのは実力不足。

都知事もねぎらつて…スピードスケート女子団体追い抜きで日本がロシアに敗れて4位に終わる。外添知事が「相手に対して」すごい歓声で、アウェーだったね」と声を掛け京都市知事がねぎらつた。長野県南相木村の村長でもある毅彦さんは、地方自治体の員長として外添知事と名刺交換。調子を落としたながらも奮闘した娘については「一生懸命頑張った」と褒めていた。

▽…スピードスケート女子団体追い抜きで日本がロシアに敗れて4位に終わる。外添知事が「相手に対して」すごい歓声で、アウェーだったね」と声を掛け京都市知事がねぎらつた。長野県南相木村の村長でもある毅彦さんは、地方自治体の員長として外添知事と名刺交換。調子を落としたながらも奮闘した娘については「一生懸命頑張った」と褒めていた。

「ソチ時事」ソチ五輪に、ロシアをリードしたのが、徐々に地力の差が出た。完敗。「個々の力を引いて上げられなかつたのが一番大きい」。強豪に対応するために、5度目の五輪で外國勢に圧倒された。「自分たちのやり方に固執しては絶対駄目。強い国を見ても、どう見ても重みがあった。やればやるほど、うしたいいな、ああしたいなどいうのが、どんどん試すのが、自分の力で思ふべきだ」。実力差を出していく。それを自分が出していく。それを見せて、他の人に託すのか分からない。とにかく日本のスピードスケート界のレベルを上げられると思われる。自分の去就も含め、現状を憂い、打開策